

1. 取組内容の進捗状況(平成28年度)

【事業の名称】

CLMVの持続可能な都市社会を支える共創的教育システムの創造(選定年度28年度・(タイプB ASEAN))

■ 交流プログラムの実施状況



本事業採択を契機として、海外連携大学との交流プログラム実施に係る協議を重ね、派遣・受入ともに当初計画していた交流プログラムを着実に実施しており、設定目標を達成している。

また、情報コミュニケーション学部では、本事業取組として、新たに「インドシナ半島経済回廊周遊プログラム」として、複数国(タイ、ベトナム、カンボジア)において海外連携大学との学生交流を実施するプログラムを開発・実施している。(学生14名派遣)

インドシナ半島経済回廊周遊プログラム
タイ・シーナカリンウィロート大学との模擬国連の様子

交流プログラムにおける学生のモビリティ

○ 日本人学生の派遣

平成28年度の派遣プログラムでは、前述の新規プログラムの開発に加えて、取組部局それぞれがこれまでの実績に基づき、海外連携大学との交流プログラムを実施している。

政治経済学部はベトナム国家大学ホーチミン市人文社会科学大学及びベトナム国家大学ハノイ人文社会科学大学との短期交流プログラムを平成29年2月に実施し、14名の学生を派遣している。

また、理工学部及び理工学研究科は建築国際共同ワークショッププログラムとして、平成29年1月に学生9名を派遣し、タイ・チュロンコン大学(学生7名)との学生交流を明治大学アセアンセンターにおいて実施した。平成29年3月には、ラオス国立大学との学生交流も同様に実施しており、学生4名を派遣している。(ラオス国立大学学生8名参加)

<タイプB>

	H28	
	計画	実績
学生の派遣	35	37
学生の受入	6	6

○ 外国人留学生の受入

受入プログラムは、本事業採択時期が秋学期受入開始後であったため、本格的な開始は平成29年度を見込んでいる。

なお、平成28年度は受入プログラムとして、理工学部及び理工学研究科がタイ・チュロンコン大学から4名、シンガポール国立大学から2名を受入れている。

■ 質の保証を伴った大学間交流の枠組形成に向けた取組

海外連携大学との交流プログラムに係る協議では、交流内容(学修内容)の質保証の考え方、カリキュラムの体系化等について意見交換を行っている。

また、理工学部及び理工学研究科では平成29年度以降実施する「共創FDワークショップ」の試行版を実施し、質保証等に係る共通認識を深めている。



共創FDワークショップ試行時の様子
(チュロンコン大学、ラオス国立大学)

@明治大学アセアンセンター

■ 外国人学生の受入及び日本人学生の派遣のための環境整備

上記のとおり、海外連携大学との協議を重ねており、派遣・受入ともに交流プログラム拡充を図っている。受入プログラムでは、国内版PBL型体験学習の実施に向けて、設計事務所や富山県立山町との観光事業等と連携した新規プログラムの開発を進めている。また、大学全体の受入学生への支援策として、和泉キャンパス隣接地に建設予定の混住型の学生寮建設計画を進めている。

■ 事業の実施に伴う大学の国際化の状況、情報の公開、成果の普及

本事業の推進体制として、「持続可能な都市社会を支える共創人材育成プロジェクト会議」を設置し、取組部局間での情報共有を図るとともに、事業取組の進捗管理を行っている。また、本事業採択を契機に、事業広報ウェブサイト及び広報資料(日本語・英語)を制作し、海外連携大学や関係機関への広報活動を強化している。ウェブサイトでは広報資料の公開や平成29年度に実施する交流プログラムの広報等を行っている。

■ ゲッドプラクティス等

①情報コミュニケーション学部が「インドシナ半島経済回廊周遊プログラム」において、タイ・シーナカリンウィロート大学人文学部英語学科と共同で実施した模擬国連について、国際連合アカデミック・ジャパンのホームページに掲載され広く広報された。(https://www.academicimpact.jp/meiji/topics/2017/02/28173445/)

②情報コミュニケーション学部の本事業受入プログラムを、観光国際化を推進するための実験事業として活用することを富山県立山町に提案し、同町のコンペ大会で最優秀賞を獲得し、町の施策として実施することになった。(http://www.meiji.ac.jp/infocom/information/2016/6t5h7p00000mdnzv.html)

2. 取組内容の進捗状況(平成29年度)

【事業の名称】(CLMVの持続可能な都市社会を支える共創的教育システムの創造(選定年度28年度・(タイプB ASEAN)))

■ 交流プログラムの実施状況



＜FDワークショップ・CLMV学生会議
@明治大学アセアンセンター＞

平成29年度は、本事業採択後初めての取組として、取組部局の教員・学生及び交流先大学のうち8大学より教員・学生名をタイ・バンコクの明治大学アセアンセンターに招聘し、各国が抱える都市化に伴う問題点や課題を共有し、解決へ向けた提言を行うことを目指し、「共創FDワークショップ」、「CLMV学生会議」を実施した。

また、開催に合わせて「PBL型体験学習」の試行プログラムとして、現地国際機関へのフィールドワークを実施するとともに、日本・CLMV諸国の教員・学生による活発な議論を通じて、「アジア型の将来都市構想」に向けた意識共有を行った。

なお、上記の取組に加えて、海外連携大学との交流プログラムに係る協議も重ね、派遣・受入ともに当初計画していた交流プログラムを着実に実施している。

交流プログラムにおける学生のモビリティ

○ 日本人学生の派遣

平成29年度は、取組部局がこれまでの実績及び本事業の計画に基づき、海外連携大学との交流プログラムを継続して実施した。政治経済学部はベトナム諸大学及びタイ諸大学との短期・長期交流プログラムを実施し47名の学生を派遣している。理工学部及び理工学研究科は、チュラロンコン大学等に、学生43名を派遣するとともに、ワークショップにおいてカンボジア、ラオス、ベトナム等の6大学から合計20名以上の学生と交流した。情報コミュニケーション学部はベトナム国家大学ハノイ外国語大学やタイ・シーナカリンウィロート大学等に43名を派遣している。

＜タイプB＞

○ 外国人留学生の受入

平成29年度は、政治経済学部がタイ諸大学より21名、理工学部及び理工学研究科がチュラロンコン大学及びシンガポール国立大学から20名、情報コミュニケーション学部がベトナム国家大学ハノイ外国語大学やタイ・シーナカリンウィロート大学等より32名の受入を行った。

	H29	
	計画	実績
学生の派遣	121	133
学生の受入	80	73

■ 質の保証を伴った大学間交流の枠組形成に向けた取組

海外連携大学との交流プログラムに係る協議では、交流内容(学修内容)の質保証の考え方等について引き続き意見交換を行っている。理工学研究科では夏期の2都市型WSの期間中に6校の教員により「共創FDワークショップ」の試行版を実施し、質保証やSDGs等に係る議論を深め、目標達成へ向けたアコードを取りまとめた。



■ 外国人学生の受入及び日本人学生の派遣のための環境整備

海外連携大学との協議を引き続き重ねながら、派遣・受入ともにより充実した国際交流プログラム報告会の様子@
交流プログラムの開発及び学生の受入環境の整備に取り組んでいる。大学全体の 明治大学駿河台キャンパス)
受入学生への支援策として、和泉キャンパス隣接地に混住寮(明治大学グローバルヴィレッジ)を建設し、2019年3月からの学生受入開始に向けて環境整備を進めている。また派遣学生に関しては、派遣期間中の危機管理にかかるトータルサポートサービス提供会社と本学が契約を結び、学生が派遣先での緊急時の事故受付や医療・救援サービス等のサポートが受けられる体制を全学的に整え、安全にプログラムが実施できるような環境の整備に努めている。

■ 事業の実施に伴う大学の国際化の状況 情報の公開、成果の普及

本事業の推進体制として、「持続可能な都市社会を支える共創人材育成プロジェクト会議」を定期的に実施し、取組部局間での情報共有を図るとともに、事業取組の進捗管理を行っている。本事業の広報資料(日本語・英語)の配布、事業広報ウェブサイトでのプログラムの報告の掲載に加え、2018年11月に明治大学において開催した「明治大学アカデミックフェス」(<http://www.meiji.ac.jp/gakuchou/muaf2017/>)において、「Fly to the World」として報告セッションを設け、3部局が進めてきた各プログラム及び2017年8月にバンコクで開催された「CLMV学生会議」の報告を行った。これらの取組を通じて、事業取組の情報公開及び成果の普及を進めている。

■ ゴッドプラクティス等

①11月のアカデミックフェスでは、3つの取組み部局による合同の報告セッションを実施し、質保証へ向けたプログラム・レビューの機会を設けた。

②情報コミュニケーション学部の本事業受入プログラムにおいて、昨年、富山県立山町のコンペ大会で最優秀賞を獲得した提案の実証実験を町の施策として実施し、各種メディアに紹介された。

(<http://www.meiji.ac.jp/infocom/information/2017/6t5h7p00000oii3c.html>)

3. 取組内容の進捗状況(平成30年度)

【事業の名称】(CLMVの持続可能な都市社会を支える共創的教育システムの創造(選定年度28年度・(タイプB ASEAN)))

■ 交流プログラムの実施状況



＜CLMV学生会議
@明治大学アセアンセンター＞

平成30年度は、取組部局の教員・学生及び交流先大学のうち9大学より教員・学生名をタイ・バンコクの明治大学アセアンセンターに招聘し、各国が抱える都市化に伴う問題点や課題を共有し、解決へ向けた提言にまとめることを目指し、平成29年度に続き2回目となる「共創FDワークショップ」、「CLMV学生会議」を実施した。

また、開催に合わせて「PBL型体験学習」プログラムとして、現地国際機関等へのフィールドワークを実施するとともに、日本・CLMV諸国の教員・学生による活発な議論を通じて、「アジア型の将来都市構想」に向けた意識共有を行った。

なお、上記の取組に加えて、海外連携大学との交流プログラムに係る協議も重ね、派遣・受入ともに当初計画していた交流プログラムを着実に実施している。

交流プログラムにおける学生のモビリティ

○ 日本人学生の派遣

平成30年度は、取組部局がこれまでの実績及び本事業の計画に基づき、海外連携大学との交流プログラムを継続して実施した。政治経済学部はベトナム諸大学及びタイ諸大学との短期・長期交流プログラムを実施し40名の学生を派遣している。理工学部及び理工学研究科は、チュラロンコン大学他に、学生46名を派遣し、うち13名がワークショップでカンボジア、ラオス、ベトナム等の6大学15名の学生と交流した。情報コミュニケーション学部は短期・長期プログラムを通じベトナム、タイの大学等に29名を派遣した。

○ 外国人留学生の受入

平成30年度は、政治経済学部がタイ及びベトナムの諸大学より32名、理工学部及び理工学研究科がCLMVおよびタイの諸大学から34名、情報コミュニケーション学部がラオス、ベトナム、タイの各大学より23名の受入を行った。

＜タイプB＞

	H30	
	計画	実績
学生の派遣	122	115
学生の受入	80	89

■ 質の保証を伴った大学間交流の枠組形成に向けた取組

海外連携大学との交流プログラムに係る協議では、交流内容(学修内容)の質保証の考え方等について引き続き意見交換を行っている。理工学研究科では夏期の派遣プログラム期間中に「共創FDワークショップ」を複数回実施し、JABEE建築系学士修士認定に関する質保証の考え方、カリキュラムの体系化等について意見交換を行った。

■ 外国人学生の受入及び日本人学生の派遣のための環境整備

海外連携大学との協議を重ねながら、派遣・受入ともにより充実した交流プログラムの開発及び学生の受入環境の整備に取り組んでいる。大学全体の受入学生への支援策として、和泉キャンパス隣接地に混住寮(明治大学グローバルヴィレッジ)を建設し、2019年3月から学生受入を開始した。また派遣学生に関しては、派遣期間中の危機管理にかかるトータルサポートサービス提供会社と本学が契約を締結し、学生が派遣先での緊急時の事故受付や医療・救援サービス等のサポートが受けられる体制を整え、安全にプログラムが実施できる環境の整備に努めている。



＜国内版PBL型体験学習の様子＞

■ 事業の実施に伴う大学の国際化の状況、情報の公開、成果の普及

本事業の推進体制として、「持続可能な都市社会を支える共創人材育成プロジェクト会議」を定期的に実施し、取組部局間での情報共有を図るとともに、事業取組の進捗管理を行っている。本事業の広報資料(日本語・英語)の配布、事業広報ウェブサイトでのプログラムの報告の掲載に加え、2018年11月に明治大学において開催した「明治大学アカデミックフェス」において、「Fly to the World」として報告セッションを設け、3部局が進めてきた各プログラム及び2018年8月にバンコクで開催された「CLMV学生会議」の報告を行った。これらの取組を通じて、事業取組の情報公開及び成果の普及を引き続き進めている。

■ ゴッドプラクティス等

①東京都湾岸エリア及び大丸有地区(大手町・丸の内・有楽町)の再開発プロジェクトについて学ぶ国内版PBL型体験学習を実施した。本PBLはUR都市機構、三菱地所ならびに三菱地所設計協力の下行われ、タイ各大学、本学学生等が参加し、活発な議論が行われた。

(<https://www.meiji.ac.jp/cip/clmv-asean/news/2018/6t5h7p00000tcei2.html>)

②情報コミュニケーション学部では、UNESCO及びタイ政府の持続的観光特別地域開発管理機構の指導の下、タイ・カンボジア・ベトナムの都市観光を比較するための基盤学習の環境を整備するとともに、スラム視察についてバンコク、シェムリアップ、プノンペンの三か所まで比較研修を実施した。

4. 取組内容の進捗状況(令和元年度)

【事業の名称】(CLMVの持続可能な都市社会を支える共創的教育システムの創造(選定年度28年度・(タイプB ASEAN)))

- **交流プログラムの実施状況** 令和元年度は、取組部局の教員・学生及び交流先大学のうち10大学より教員10名・学生21名をタイ・バンコクの明治大学アセアンセンターに招聘し、本学からは教員・TA10名、学生29名が参加した。各国が抱える都市化に伴う問題点や課題を共有し、解決へ向けた提言にまとめることを目指し、平成29年度・30年度に続き3回目となる「共創FDワークショップ」、「CLMV学生会議」を実施した。また、開催に合わせて「PBL型体験学習」プログラムとして、現地国際機関等へのフィールドワークを実施するとともに、日本・CLMV諸国の教員・学生による活発な議論を通じて、「アジア型の将来都市構想」に向けた意識共有を行った。
- なお、上記の取組に加えて、海外連携大学との交流プログラムに係る協議も重ね、派遣・受入ともに当初計画していた交流プログラムを着実に実施している。



〈共創FDワークショップ
@明治大学アセアンセンター〉

交流プログラムにおける学生のモビリティ

○ 日本人学生の派遣

令和元年度は、取組部局がこれまでの実績及び本事業の計画に基づき、海外連携大学との交流プログラムを継続して実施した。政治経済学部はベトナム諸大学及びタイ諸大学との短期・長期交流プログラムを実施し27名の学生を派遣している。理工学部及び理工学研究科は、学生47名を派遣し、うち17名が明治大学アセアンセンターで行われたワークショップでミャンマー、カンボジア、ラオス、ベトナムの5大学13名の学生と交流した。情報コミュニケーション学部は短期・長期プログラムを通じベトナム、タイの大学等に40名を派遣した。

○ 外国人留学生の受入

令和元年度は、政治経済学部がタイ及びベトナムの諸大学より42名、理工学部及び理工学研究科がCLMVおよびタイの諸大学から26名、情報コミュニケーション学部がラオス、ベトナム、タイの各大学より31名の受入を行った。

〈タイプB〉

	R1	
	計画	実績
学生の派遣	124	114
学生の受入	84	99

■ 質の保証を伴った大学間交流の枠組形成に向けた取組

海外連携大学との交流プログラムに係る協議では、交流内容(学修内容)の質保証の考え方等について引き続き意見交換を行っている。理工学研究科では夏期の派遣プログラム期間中に「共創FDワークショップ」を複数回実施し、JABEE建築系学士修士認定に関する質保証の考え方、カリキュラムの体系化等について意見交換を行った。

■ 外国人学生の受入及び日本人学生の派遣のための環境整備

海外連携大学との協議を重ねながら、派遣・受入ともにより充実した交流プログラムの開発及び学生の受入環境の整備に取り組んでいる。大学全体の受入学生への支援策として、和泉キャンパス隣接地に混住寮(明治大学グローバルヴィレッジ)を建設し、2019年3月から学生受入を開始した。また派遣学生に関しては、派遣期間中の危機管理にかかるトータルサポートサービス提供会社と本学が契約を締結し、学生が派遣先での緊急時の事故受付や医療・救援サービス等のサポートが受けられる体制を整え、安全にプログラムが実施できる環境の整備に努めている。



〈国内版PBL体験学習の様子〉

■ 事業の実施に伴う大学の国際化の状況情報の公開、成果の普及

本事業の推進体制として、「持続可能な都市社会を支える共創人材育成プロジェクト会議」を定期的に実施し、取組部局間での情報共有を図るとともに、事業取組の進捗管理を行っている。本事業の広報資料(日本語・英語)の配布、事業広報ウェブサイトでのプログラムの報告掲載に加え、CLMV会議のオンデマンド動画配信を開始した。2019年11月に明治大学において開催した「明治大学アカデミックフェス」において、「Fly to the World」として報告セッションを設け、3部局が進めてきた各プログラム及び2019年8月にバンコクで開催された「CLMV学生会議」の報告を行った。これらの取組を通じて、事業取組の情報公開及び成果の普及を引き続き進めている。

■ グッドプラクティス等

①東京都渋谷駅前の再開発プロジェクトについて学ぶ国内版PBL型体験学習を実施した。本PBLは東急株式会社協力の下行われ、タイ各大学、本学学生等が参加し、活発な議論が行われた。

(<https://www.meiji.ac.jp/cip/clmv-asean/news/6t5h7p00001z6yi1.html>)

②2019年春に誕生した本学和泉キャンパスに隣接する混住型学生寮「明治大学グローバルヴィレッジ」は、外国人留学生と日本人学生が学習及び交流スペースを共にしながら生活し、国際コミュニティを形成していく「学びの場」として位置づけられている。セキュリティにも配慮した快適な修学環境と、日常生活における日本人学生との交流の場を提供している。

5. 取組内容の進捗状況(令和2年度)

【事業の名称】(CLMVの持続可能な都市社会を支える共創的教育システムの創造(選定年度28年度・(タイプB ASEAN)))

■ 交流プログラムの実施状況



(2021年1月・国内版PBL型体験学習(オンライン))

毎年8月にタイ・バンコクの明治大学でアセアンセンターで実施していた「CLMV学生会議」「共創FDワークショップ」について、令和2年度はCOVID-19の影響により8月の実施を中止した。学生・教職員の安全に配慮し慎重に協議を重ね、実施方法および実施時期の検討を続けていたが、各国の渡航制限の状況や感染症拡大の影響に改善が見られないことから、最終的に実施を断念した。また、当初2020年5月に実施予定であった国内版PBL型体験学習(JR高輪ゲートウェイ駅)について、同様に実施可否や方法について検討を続け、最終的に2021年1月にアメリカ、東京2拠点から外部講師にご参加いただき、オンラインで実施した。

なお、コロナ禍においても、海外連携大学と計画していた派遣・受入プログラムをオンラインまたはオンライン・対面のハイブリッドプログラムの開発に向けて協議を継続している。

交流プログラムにおける学生のモビリティ

○ 日本人学生の派遣

令和2年度は、COVID-19の影響により計画していた対面でのプログラム実施が叶わなかったが、このような厳しい状況下においても政治経済学部はベトナムの協定校と実施したオンライン短期留学プログラムに11名、タイの協定校へのオンライン長期留学プログラムに1名、理工学部及び理工学研究科は、チュラロンコン大学と共同で実施したオンラインプログラムに11名、情報コミュニケーション学部はシーナカリンウィロート大学と共同で実施したプログラムに41名(および一部参加学生1名)が参加した。

○ 外国人留学生の受入

令和2年度は、取組3部局が合同で取り組んだ国内版PBL型体験学習オンラインプログラムに41名、理工学部及び理工学研究科が実施したオンラインプログラムにタイの大学から10名、情報コミュニケーション学部が実施したオンラインプログラムにベトナム、タイの各大学より8名の学生が参加した。

<タイプB> ※一部参加学生1名除く

	R2	
	計画	実績
学生の派遣	126	64※
学生の受入	84	59

■ 質の保証を伴った大学間交流の枠組形成に向けた取組

海外連携大学との交流プログラムに係る協議では、交流内容(学修内容)の質保証の考え方等について引き続き意見交換を行っている。2020年11月から2月にかけて、3名の外部評価委員による外部評価を実施した。外部評価結果については今後の活動に反映していくとともにHPで公開している。



(情報学部・オンライン学生交流)

■ 外国人学生の受入及び日本人学生の派遣のための環境整備

コロナ禍においても、海外連携大学との協議を重ねながら、当初対面での実施予定であった派遣・受入について、オンライン・対面のハイブリッドプログラムなど交流プログラムの開発及び学生の受入環境の整備に取り組んでいる。その一環として、アセアンセンターを活用し、タイの協定校の学生と明治大学の学生が交流を行うことで、留学に興味を持つことをねらった導入型のオンラインプログラムを計画している。また、受入学生への支援策として、和泉キャンパス隣接地に混住寮への受入れを行っている。派遣学生には、派遣期間中の危機管理にかかるトータルサポートサービス提供会社と本学が契約を締結し、安全にプログラムが実施できる環境整備に努めている。

■ 事業の実施に伴う大学の国際化の状況

情報の公開、成果の普及

本事業の広報資料(日本語・英語)や各取り組み部局の印刷物について、交流先大学への配布するだけでなく、事業広報ウェブサイトからも閲覧できるようにしている。また、各プログラムの実施報告、2019年度CLMV会議のオンデマンド動画配信に加え、2021年1月にオンラインで実施した国内版PBL型体験学習の紹介動画及び2020年11月から2月にかけて実施した外部評価結果についても本事業広報ウェブサイトで公開しており、本学の事業取組の情報公開及び成果の普及に努めている。

■ グッドプラクティス等

・2021年1月に、JR高輪ゲートウェイ周辺地域のまちづくりについて学ぶ国内版PBL型体験学習をオンラインで実施した。本PBLは東日本旅客鉄道株式会社(JR東日本)、設計者であるPickard Chilton(アメリカ)、設計共同企業体(JR東日本設計・JR東日本コンサルタンツ・日本設計・日建設計)、トライポッドスタジオご協力の下で実施され、カンボジア・ラオス・ベトナム等の協定校学生41名、本学学生5名、協定校外の学生や過去に本学での留学経験のある海外学生、協定校の教員等、計67名が参加し、3グループに分かれてディスカッションを行った。

(<https://www.youtube.com/watch?v=dX11RHViRes&list=PL8bCC-xrDXMQpu1mXLgioUcZhqMELxSDp&index=2>)